

利用者アンケート調査について(案)

1) 調査目的

「徳島県地域公共計画」の策定に向け、幹線バス系統各路線の再編方向性の判定や、計画に位置付ける目標や施策等の検討材料として、県内における公共交通利用者の利用実態やニーズを把握する。

2) 調査対象

県内の幹線バス系統のうち、主な再編対象と想定される徳島市内に乗り入れる路線の利用者を主対象とする。

3) 調査票配布方法

- ・ 徳島市内に乗り入れる幹線バス系統等のうち、利用者の多いバス停で、乗車待ち時に手渡し配布を行う。
- ・ 配布は、平日・休日各1日とする。
- ・ 配布バス停は、利用者数の多いバス停のうち、方面別のバランス等を考慮し、「徳島駅前」「鳴門駅前」「ゆめタウン徳島」「南小松島駅」「中央病院・徳大病院（平日）」「フジグラン石井（休日）」「橘営業所（平日）」「阿南駅（休日）」の6か所を想定する。



図1 調査票配布箇所(案)

※出典:次世代地域交通ビジョンを基に加筆

表1 幹線バス系統における主要バス停利用者数(平日)

	運行本数 (片方向)		利用者数 (平日)		
			乗車		
	平日	休日	上り	下り	合計
徳島駅前	180	149	0	684	684
徳島大学前	53	44	11	31	42
鳴門駅前	55	51	32	43	75
四国大学前	63	52	83	26	109
ゆめタウン徳島	25	24	47	13	60
中央病院・徳大病院	58	45	50	16	66
フジグラン石井	25	18	27	5	32
日赤病院	32	29	24	19	43
南小松島駅前	32	29	8	41	49
橘営業所	27	26	11	4	15
阿南駅	-	-	-	-	-

※阿南駅は令和2年10月から乗り入れ

※出典:令和2年乗降調査

※徳島市内の大学生については、別途追加調査の実施を検討する。

4) 調査票回収方法

「紙媒体での郵送回収」「WEB上での回答」の2通りで回答できるようにする。
WEB上での回答用に、依頼文にQRコード等を記載する。

5) 調査物件

以下を配布用封筒（長3型）に入れて、配布する。

- 依頼文
- 啓発資料「徳島県の公共交通の状況について」 ※依頼文の裏面
- 調査票
- 返信用封筒

6) 設問設定の考え方

調査内容は、調査目的に基づき、以下の通り設定した。

表2 調査内容

項目	内容	ねらい・活用方法
1. あなたご自身について	Q1 あなた自身について ・個人属性(年齢、性別、居住地、職業等) ・自動車免許、自由に使える自動車有無 ・最寄駅・バス停と徒歩での所要時間	・年代や居住地等によるニーズの違いを把握(クロス集計用) ・公共交通の利用圏域、駅・バス停アクセス手段の必要性を把握
2. バスの利用状況について	Q2 県内におけるバスの利用状況について ・よく利用するバスの路線、区間、乗車時間 ・バスの利用頻度 ・バスを利用する曜日・時間 ・バスを利用する際の移動目的 ・乗り継ぎの状況	・バス路線再編や施策展開のターゲットの把握
3. 県内における公共交通の状況について	Q3 公共交通の置かれている状況の認知 Q4 今後の公共交通サービス提供に対する考え方 Q5 今後の公共交通サービスを維持・確保するうえでの考え方	・望ましいサービス水準等を尋ねるうえでの基本認識、意識啓発の必要性の確認 ・利用者目線から特に重要な取組みの把握
4. バスサービスに対する満足度について	Q6 現状のバスサービスの満足度 (運行ルート、運行本数、始発・終発バス時刻、所要時間、運賃、鉄道やバスとの乗り継ぎ、バス停設備、バリアフリー対応、総合的な満足度) Q7 利用する上で重要なサービス項目	・現状のバスサービスの課題及び優先的に対応すべき事項の把握
5. バスを利用する上で望ましい水準・条件について	Q8 望ましい運行間隔 Q9 乗り継ぎを許容するための水準・条件 Q10 乗り継ぎの望ましい場所	・幹線バス系統再編検討における条件把握
6. 公共交通に関する取組について	Q11 実施すべき施策	・次世代地域公共交通ビジョンで示されている施策の必要性・優先度の把握(主にバスに関するもの)
7. 公共交通全般について	Q12 公共交通全般に対する自由意見	・具体的な課題・ニーズ等の把握

【参考】過年度調査における乗り継ぎに対する意向について

「次世代地域公共交通ビジョン（令和元年 12 月策定）」の中で、平成 30 年に実施されている公共交通に関するアンケート調査結果が活用されている。

(1) 調査概要

計画の中に提示されている調査概要は以下の通りであり、県内の各エリアが対象となっている。

【調査の概要】				
① 調査期間：平成 30 年 9 月 27 日～10 月 10 日				
② 調査対象：オープンとくしまe-モニター 200 名				
③ 回答状況：回答者数 178 名（回答率 89.0%）				
④ 回答者の内訳				
・ 性別	男性 81 名	女性 97 名		
・ 年齢別	30 歳未満	6 名	30～39 歳	21 名
	40～49 歳	39 名	50～59 歳	40 名
	60～69 歳	39 名	70 歳以上	33 名
・ 地域別	徳島市		71 名	
	鳴門・板野エリア		40 名	
	阿波・吉野川エリア		23 名	
	小松島・勝浦エリア		17 名	
	阿南・那賀・海部エリア		13 名	
	美馬・三好エリア		14 名	

図.2 調査概要(次世代地域公共交通ビジョンより抜粋)

(2) 調査結果

本調査において、「乗り継ぎ環境への抵抗」に関する設問が設けられており、8 割以上の方が快適に乗り継げるのであれば乗り継ぎに対する抵抗感があまりない、ということが把握できている。



図3 「乗り継ぎ環境への抵抗」に関する調査結果(次世代地域公共交通ビジョンより抜粋)

徳島県の公共交通に関するアンケート調査(案)

ご協力のお願い

日頃は、徳島県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では、高齢化社会への対応や観光振興を図る上で、「公共交通」の重要性は年々高まっています。

こうした背景を踏まえ、徳島県では、未来に向けた地域公共交通の羅針盤として「次世代地域公共交通ビジョン」を令和元年12月に策定し、今後さらに、具体的な公共交通に関する取組み内容を定めた「徳島県地域公共交通計画」の策定を予定しています。

そこで、これらの計画の策定に当たり、皆様が県内の公共交通をどのように利用しているのか、公共交通に対してどのようなご要望をお持ちなのかなどを把握するため、アンケート調査を実施することとしました。

この調査は県内のバス利用者・鉄道利用者を対象として、ご協力をお願いしております。ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することは、一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年9月

徳島県地域公共交通協議会
(徳島県県土整備部次世代交通課)

ご記入にあたってのご注意

1 アンケートの回答方法

◆アンケート用紙またはインターネットのいずれか一方でご回答ください。

◆ご本人様(調査票を受け取った方)がご記入ください。

◆アンケート用紙で回答いただく場合は、別紙の調査票に
直接ご記入ください。

◆インターネットでお答えいただく場合は、二次元コード
またはURLからアクセスしてください。

【スマホの場合】右記二次元コードを読み取ってください
【パソコンの場合】

URL：https://questant.jp/q/tokushima-pref_MT



2 調査票の返送方法 ※インターネットで回答いただく場合は不要です。

◆アンケート用紙でご記入いただく場合は、同封の返信用封筒に入れて、

●月●日(●)までに、郵便ポストに投函してください。

◆返信用封筒に切手は不要です。

また、お名前・ご住所をご記入いただく必要はありません。

3 問い合わせ先

◆調査の趣旨などに関すること

徳島県 県土整備部 次世代交通課 担当：町田、岸

電話：088-621-2128(直通) 受付時間：平日 9:00-17:00

◆調査票の内容や回答方法に関すること

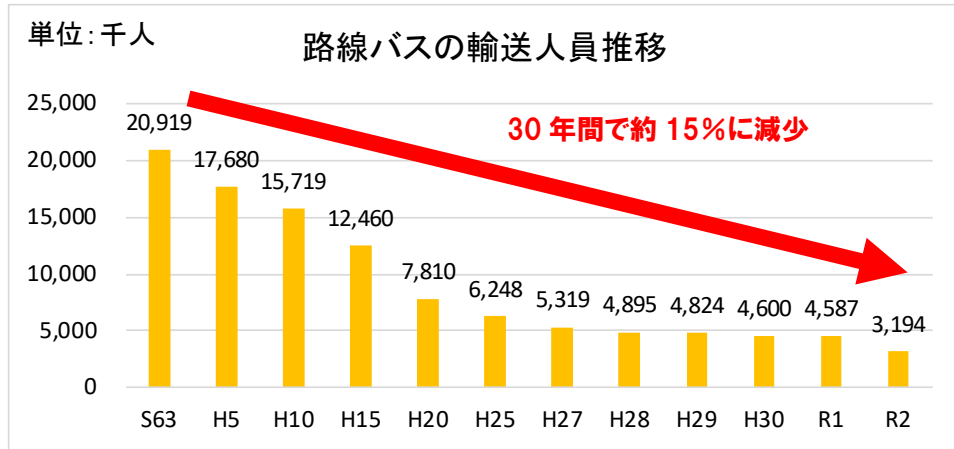
パシフィックコンサルタンツ株式会社 担当：穴井、橋内

電話：06-4799-7318(直通) 受付時間：平日 9:30-17:00

裏面もご覧ください

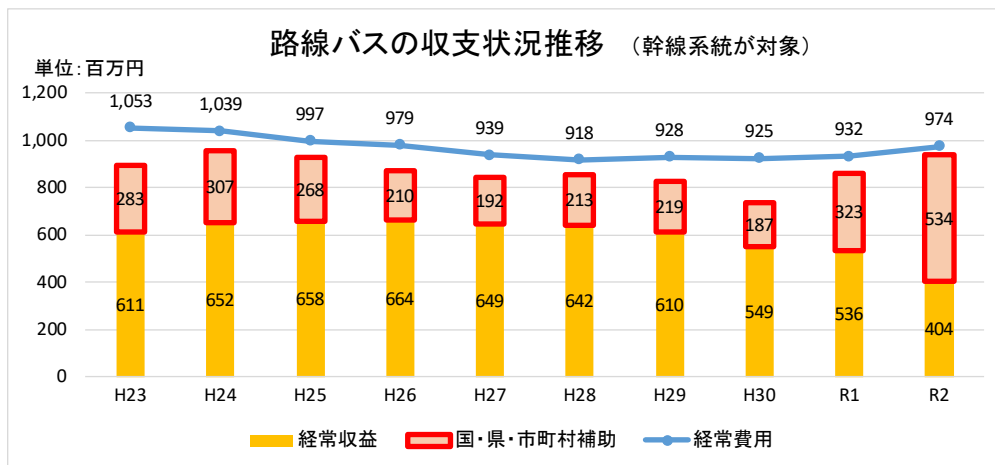
徳島県内の公共交通に関する状況

県内の路線バス利用者数は、30年前の約15%に減少しています



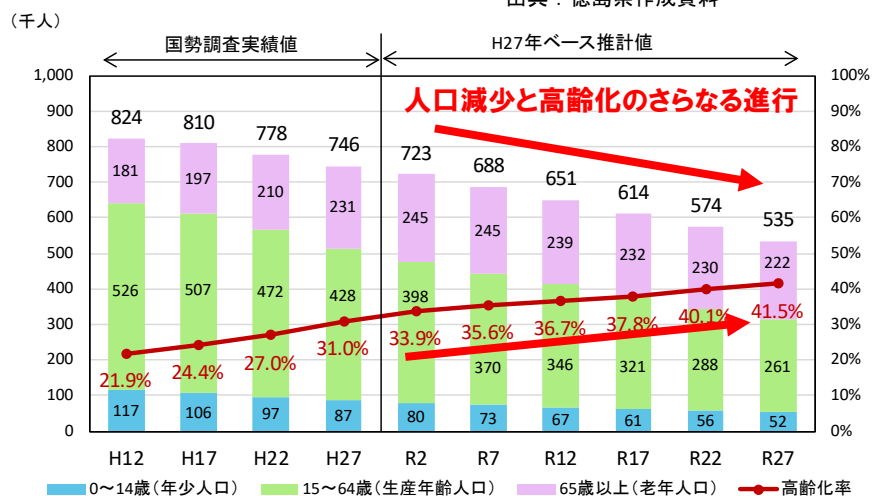
出典：国土交通省四国運輸局「四国における運輸の動き」

運行に要する費用は収入では補えず、国や自治体の補助金（税金）が使われています



出典：徳島県作成資料

今後、さらなる人口減少、少子高齢化の進行により、公共交通の収支や財政状況はより一層厳しさを増すと見込まれます



出典 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

公共交通を維持・確保するためのあり方について、考えていく必要があります

徳島県内の公共交通に関するアンケート調査票(案)

1. あなたご自身について

Q1 あなたご自身について、下表にご記入ください。

住 所	(郵便番号) -			
性 別	1. 男性 2. 女性 3. 未回答			
年 齢	1. 10 歳未満 2. 10 歳代 3. 20 歳代 4. 30 歳代 5. 40 歳代 6. 50 歳代 7. 60 歳代 8. 70 歳代 9. 80 歳代以上			
職 業	1. 会社員・公務員・団体職員 2. 自営業・自由業 3. アルバイト・パート 4. 専業主婦・主夫 5. 小中学生 6. 高校生 7. 大学生・専門学校 8. 無職 9. その他 ()			
自動車免許 ・自動車の 保有状況	1. 免許を持っており、車やバイク等を保有している 2. 免許を持っているが、現在は車やバイク等を保有していない 3. 免許証は返納した 4. 免許を持っていない			
最寄り駅・ バス停と、 自宅からの 徒歩時間	最寄り駅 駅	1. 5 分以内 2. 6～10 分 3. 11～15 分 4. 16～20 分 5. 21～30 分 6. 31 分以上		
	最寄りバス停 バス停	1. 5 分以内 2. 6～10 分 3. 11～15 分 4. 16～20 分 5. 21～30 分 6. 31 分以上		

2. バスの利用状況について

Q2 県内におけるバスの利用状況について、下表にご記入ください。

よく利用するバス路線、 区間、乗車時間		バス路線	_____線 ※不明の場合は空欄で結構です	
		バス停区間	乗車 _____バス停	～ 降車 _____バス停
		バス乗車時間 ※待ち時間除く	約 _____分	
バスの利用頻度 (1つ選択)		1. ほぼ毎日 2. 週に3～4回程度 3. 週に1～2回程度 4. 月に数回程度 5. 年に数回程度 6. 数年に1回程度		
バスを利用する曜日 (複数選択)		1. 月曜 2. 火曜 3. 水曜 4. 木曜 5. 金曜 6. 土曜 7. 日曜・祝日		
バスを利用する 時間帯 (1つ選択)	行き	1. 7～9時 2. 10～12時 3. 13～15時 4. 16～18時 5. 19～20時 6. 21～22時		
	帰り	1. 7～9時 2. 10～12時 3. 13～15時 4. 16～18時 5. 19～20時 6. 21～22時		
路線バスを利用する際の 主な移動目的 (1つ選択)		1. 通勤 2. 通学 3. 業務 4. 買い物 5. 通院 6. 行政・金融機関利用 7. 趣味・娯楽等 8. その他 (_____)		
乗り継ぎ状況 (乗り継ぎしている場合は 駅名・バス停名も記入)		1. バスと鉄道を乗り継いでいる 2. 異なるバス路線を乗り継いでいる ⇒乗り継ぎの駅名・バス停名を記入 (_____) 3. 乗り継ぎはしていない(1つのバス路線のみ利用)		

3. 県内の公共交通の状況について

※依頼文裏面の「徳島県内の公共交通に関する状況」をご覧くださいの上で、以下にお答えください。

Q3 県内の公共交通利用者数が減少傾向にあり、路線バスの赤字分を補助金（税金）で支えていることを知っていましたか？（1 つに○）

1. 以前から知っていた 2. 初めて知った 3. よくわからなかった

Q4 今後、県内の路線バスなどの公共交通サービスについて、どのような方向で取り組む必要があると思いますか？（1つに○）

1. 現状より充実させていくべきだ
2. 現状の程度で維持していくべきだ
3. 人口減少や利用者数の減少などにより、公共交通の縮小はやむを得ない
4. その他 ()

Q5 県内の公共交通を維持・確保するうえで、どのような取組みが特に重要だと考えますか？
(最もよくあてはまるもの 1 つに○)

1. 公共交通の最適化（鉄道とバスとの重複解消、需要に応じた移動手段の構築など）
2. 利便性の向上（乗り継ぎ環境や情報提供の充実、スマートフォンによる予約システムの構築など）
3. 利用促進（公共交通機関を地域全体で支えていく意識の醸成）
4. その他（）

4. バスサービスに対する満足度について

Q6 県内であなたがよく利用するバスのサービスに対する満足度をお答えください。

<u>全ての項目について考えに近いものを 1～5 から1つ選び○</u>	満足	やや 満足	普通	やや 不満	不満
① 運行ルート	5	4	3	2	1
② 運行本数（運行間隔）	5	4	3	2	1
③ 始発バス時刻	5	4	3	2	1
④ 終発バス時刻	5	4	3	2	1
⑤ 所要時間（目的地までの乗車時間）	5	4	3	2	1
⑥ 運賃	5	4	3	2	1
⑦ 鉄道やバスとの乗り継ぎ（移動や待ち時間）	5	4	3	2	1
⑧ バス停設備（屋根、ベンチ、運行情報等）	5	4	3	2	1
⑨ バリアフリー対応（ノンステップバス等）	5	4	3	2	1
⑩ 上記を含めた総合的な満足度	5	4	3	2	1

Q7 Q6に挙げた①～⑨のサービス項目のうち、利用する上で重要と考えるものから順に上位3つをお答えください。

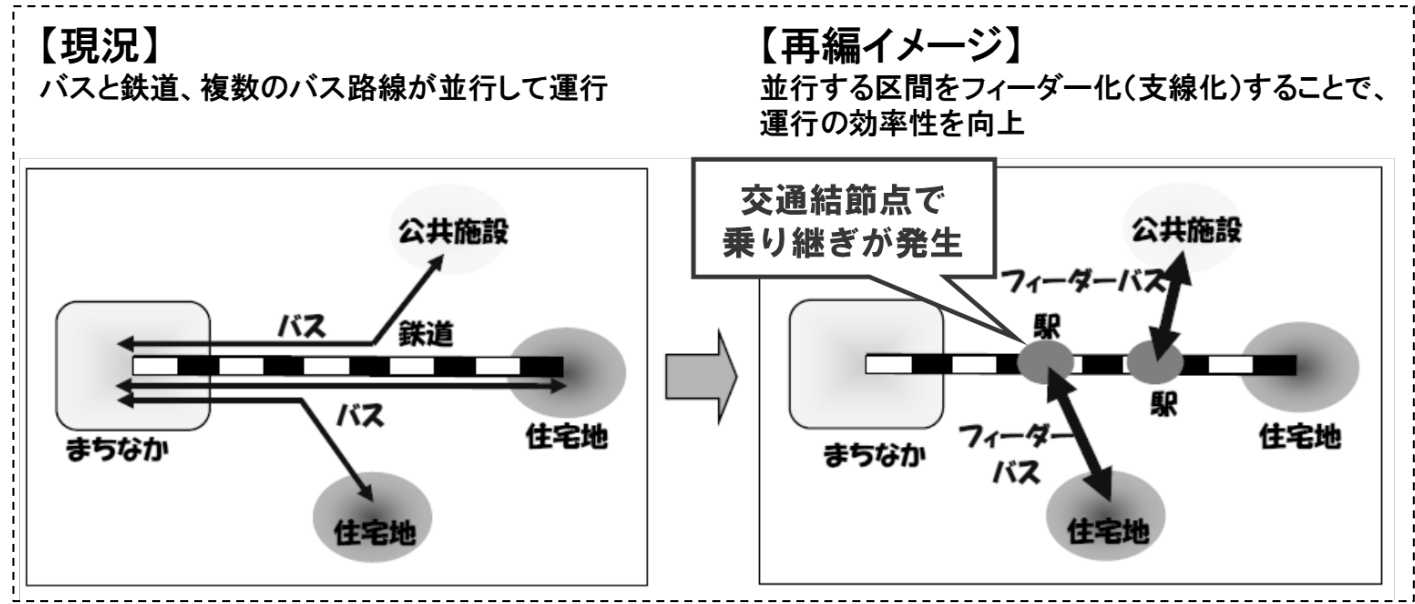
利用する上で重要なサービス (上記①～⑨の番号を記入)	1 位		2 位		3 位	
--------------------------------	-----	--	-----	--	-----	--

5. バスを利用するうえで、望ましい水準・条件について

Q8 県内でバスを利用するために、最低限望ましいと考える運行間隔についてお答えください。（①～⑤それぞれ最もあてはまるもの 1 つに○）

1. 20 分間隔
2. 30 分間隔
3. 40 分間隔
4. 1 時間間隔
5. 2 時間間隔
6. 2 時間間隔
7. 3 時間間隔
8. 1 日に（ ）本程度

本県では、持続可能な公共交通網の構築に向け、下図のようなバス路線の再編を検討しております。ついては、以下の設問にお答えください。



Q9 乗り継ぎを許容するための条件・水準について、お答えください。（当てはまるものすべてに○をつけ、（ ）に記入）

1. 目的地までの到着時間が大きく増加しないなら許容できる。
⇒現状よりも（ ）分増加までであれば許容できる。
2. 乗り継ぎの待ち時間が短い
⇒乗り継ぎの待ち時間が（ ）分までであれば許容できる
3. 目的地までの運賃が大きく増加しないなら許容できる
⇒現状よりも（ ）円増加までであれば許容できる
4. 自宅から駅やバス停に向かうバス等の運行本数が増加するなら許容できる
5. 乗り継ぎ地点に商業施設や休憩スペースがあり快適に待てるなら許容できる
6. その他（具体的に ）
7. 乗り継ぎは許容できない

Q10 乗り継ぎが発生する場合、どのような場所が望ましいですか。（当てはまるものすべてに○をつけ、具体駅・施設名があれば記入）

1. 鉄道駅 （具体駅名： ）
2. 病院 （具体施設名： ）
3. 商業施設（具体施設名： ）
4. その他 （具体施設名： ）

6. 公共交通に関する取組について

Q11 県内の公共交通の最適化、利便性向上、利用促進に向け、特に実施すべきと考える施策をお答えください。（当てはまるもの 3 つまでに○）

1. 鉄道とバス、複数バス路線の並行・重複を解消する
2. パターンダイヤの導入を促進する
3. 鉄道とバス、バス路線間、バスとタクシー等の乗り継ぎがしやすくなる
4. 地域内交通ネットワーク（コミュニティバス、デマンド交通、タクシー等）を維持・充実する
5. 新たな路線の開設により公共交通ネットワークを充実する
6. スクールバス、福祉バス、自家用有償旅客運送等を活用して移動手段を確保する
7. 新たな移動手段（ライドシェア、自動運転バス等）の導入を率先して検討する
8. バスの情報提供を充実する（時刻表や路線情報、到着予定時刻など）
9. バスの待合環境を充実する（屋根やベンチの設置、施設内の待合所整備など）
10. バリアフリー車両の導入を推進する（ノンステップバスなど）
11. 運賃支払いにおけるキャッシュレス決済を充実する（IC カード、QR コードなど）
12. 駅・バス停付近に駐車場・駐輪場を整備する
13. フリー乗車券を充実する（異なる交通機関対応、子ども向け、観光施設とのセット券など）
14. 外国人対応のための多言語表記や企画乗車券を充実する
15. 貨客混載を推進する（バスによる貨物輸送）
16. 新たな車両を導入する（電動車両など）
17. 利用啓発イベントを開催する（バスの日・鉄道の日など）
18. マイレール・マイバス意識を醸成する（公共交通の厳しい現状や必要性・利便性の周知）
19. その他（ ）

7. 公共交通全般について

Q12 県内の公共交通に関して、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

～アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。～
ご記入いただいた調査票は返信用封筒に入れ、●月●日（●）までにご投函ください。